



Title	ご退職によせて
Author(s)	奥藤, 里香
Citation	大阪大学英米研究. 2014, 38, p. 16-17
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/99377">https://hdl.handle.net/11094/99377</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## ご退職によせて

関西医科大学 奥藤 里香

セミナールームに立ち込めるコーヒーの香り、ハワイにかかる二重の虹、ビートルズ…杉本先生を思い浮かべる時、鮮明に描かれる心象風景です。思えば杉本先生とご一緒に過ごさせて頂いた大学生、大学院生時代は、人生のうちで最も幸せな時間だったのではないかと思います。それまで遠く恐れ多い存在だった大学の先生方と接することの出来る喜びにワクワクする毎日でした。杉本先生をはじめ、先生方を囲んで幾度となく催された食事会は、まるで第二の家族と過ごしているような心地良さでした。あのような思いに浸れる日々は、もう二度と来ることはないだろうと思います。

カテゴリーとは実は必要十分条件で定義されるようなものではない、スズメとダチョウではスズメの方が鳥らしい、仮定法はメンタルスペースの構築と考えられる、レストランにはシナリオが存在する、メタファーは単なる修辭法ではなく理解様式である、人生は旅であり、議論は戦争である…杉本先生の講義において次々に繰り出される認知言語学の考え方に、当時弱冠二十歳だった私の感受性は大いに刺激されたものでした。それまで受験英語に凝り固まっていた私にとって、まさに目から鱗が落ちる思いでした。特に、カテゴリー観についてのお話と、認知的フィルターによる人間の世界理解の限界についてのお話は大変興味深く、言語学の枠組みを超えて哲学的にも非常に考えさせられたものでした。「将来は言語学を専攻しよう」、そう決意した瞬間でした。あの時杉本先生との出会いがなければ、今の私は存在していなかったと言っても過言ではありません。

常に優しく穏和で気さくな杉本先生ですが、こと研究面に関しては大変厳しく、眼光の鋭さが今でも鮮明に思い出されます。時にはひやひやつつも、杉本先生から頂く「面白い」の一言が嬉しくて、それを励みに研究に勤しんだものでした。

卒業した後も、事あるごとに様々な相談やご報告をさせて頂き、その度に迅速かつ温かいアドバイスやお言葉を返して頂き、これまでどれほど救われたか知れません。特に、ニュージーランドという慣れない異国の地での留学生活において、中学高校というハードな勤務地での苦勞の絶えない毎日において、大学という憧れの職場での戸惑いの毎日において、そして結婚・出産・子育てという人生の転換期において、杉本先生のお言葉にいつもほっと心が和み、勇気づけられたものでした。

そしてまた、杉本先生との出会いの場は、私事ながら図らずもパートナーとの出会いの場ともなりました。当時も今も、パートナーとの会話の半分は言語学に関することとなっております。結婚式で頂いた有り難い祝辞のお言葉は一生忘れることはありません。どうもありがとうございました。

いつも若さとエネルギーとパワーに満ち溢れておられる杉本先生が、はやご退職されるとは全く信じられない思いですが、私も少しでもそのエネルギーを受け継いで行ければなあと思います。これからもどうかご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、今まで本当にどうもありがとうございました。またお会い出来る日を心待ちにしております。